令和３年度

夢をもち　ともにやりぬく

南っ子

学校だより　№　8

１２月号

磐田市立磐田南小学校

修学旅行・観音山を終えて

周りに感謝と思いやり

５年生の宿泊体験学習と６年生の修学旅行の出発式では、ともに「感謝を思いやりの形で表そう」といった内容の話をしました。コロナの関係で、観音山少年自然の家では「一週間以内に本人、同居の家族に発熱者がいたら参加できない」という厳しいルールが定まっており、５年生のお家の方は、「家族の誰とて発熱させられない」という強いプレッシャーの中で、どれほど神経を使ってこられたか。６年生のお家の方も同様であったと思います。こういった支えがあって、今があるということに思いを巡らせることができ、お家の方へ感謝できる子供達であってほしいということを伝えました。５、６年生に限らず、周りに感謝できる南小の子供たちであってほしいと思います。感謝の気持ちは人を強くすると思います。

５年生の宿泊体験学習は 11 月 4 日（木）～5 日（金）に観音山少年自然の家で実施しました。この体験学習は、山頂登山や沢登りなどハード目なメニューの体験学習です。

１週間前ほどまでは、子供たちからは、「楽しみ」という声が多く聞かれましたが、近づくにつれ「行きたくない」という声が聞かれるようになりました。子供たちの心の天秤が、家を離れて宿泊を経験するワクワクやドキドキ、期待と不安で揺れていることがよく表れていました。泊を終え、活動もほぼ終了の２日目の雑談の中では、「もう一泊したい」「一週間ぐらいいてもいい」などの声が聞かれ、この体験学習をとおして子供たちが大きく成長したことを感じました。

６年生の修学旅行は 11 月 16 日（火）～17 日（水）。河口湖畔やリニア見学センター、富士急ハイランドなど山梨方面に行ってきました。

それぞれの見学地で子供たちは楽しんだり見聞を広げたりしました。帰校式では、「働く大人たち」に焦点を当てた話をしました。軽妙な語り口調で飽きさせない猿回しの芸人や、子供相手でもお客様として丁寧にサービスするホテルの従業員。接した大人たちの仕事に対する向き合い方などから学んだ点は多かったと思います。一番身近な大人からは、近すぎて気づけないことに気づき、客観的に学べたのではないかと思います。

修学旅行では、私は３組の子供たちと同じバスに乗り行動を共にしました。ある見学地に着き、子供たちが次々とバスを降りていきました。全員が下りるのを待っていた私に、ある子が「お先にどうぞ」と声をかけてくれました。ワクワク感から早く降りたいという状況下での思いやりの一言に心が温かくなりました。日頃から周りを思いやることができているんですね。私にとっての修学旅行の一番の思い出です。

（校長　上野　明彦）